

伝統受け継ぎ、麒麟舞う

中ノ郷小の学習発表会が2022年11月19日に開かれ、伝統芸能クラブによる「麒麟獅子舞」が披露された。発表後、会場に訪れた保護者、地域の方からの盛大な拍手に、練習に頑張ってきた伝統芸能クラブのメンバーからは喜びの笑顔が見られた。

中ノ郷小伝統芸能クラブは4年生4人、5年生3人、6年生2人の9人で編成されており、中ノ郷地区に伝わる伝統芸能を受け継いでいくこと、地域の指導者である西村朋之さん、青木洋一さんから指導を受けながら、「麒麟獅子舞」といって練習している。難しいところも6年生がリードしながら、全員が一

発表会で盛大な拍手 伝統芸能クラブ



学習発表会で麒麟獅子舞を披露する伝統芸能クラブのメンバー

生懸命取り組んでいる。舞だ。獅子は赤い衣装と麒麟獅子とは鐘、笛、太鼓の3種の楽器を奏でながら、狸々という酔った動きをしながら美しく舞う。麒麟舞は赤い衣装と麒麟獅子とは鐘、笛、太鼓の3種の楽器を奏でながら、狸々という酔った動きをしながら美しく舞う。麒麟舞は赤い衣装と麒麟獅子とは鐘、笛、太鼓の3種の楽器を奏でながら、狸々という酔った動きをしながら美しく舞う。

その成果を学習発表会でも披露した。その舞は素晴らしく、圧倒されるものだった。それを見た人からは「すごい美しい」「かっこいい」などの声が聞かれた。学習発表会以外にも地区のお祭りで披露し、さまざまな人に伝統芸能を広めている。

伝統芸能クラブ5年生の坪田祥佳さんは「学習発表会での発表はとても緊張したが、成功してうれしかった。もっと上手にできるように、これからも頑張りたい」と話した。伝統芸能クラブの活動が、中ノ郷地区に伝わる麒麟獅子舞、さといりさしを受け継いでいく。

(石田ちなつ、遠藤弥恵、藤松陸人)



元気に登校、1日をスタート

「あいさつの壁」を考えたのは運営委員会の6年生だ。運営委員が廊下を並び、あいさつをして登校してくる児童を迎える。そのほかに、英語であいさつをする週間もあった。

また、6年生は校門前であいさつをして登校児童を迎えたり、ある児童は、今日も、元気なあいさつをするというカードをもらって学校生活スタートさせてきた。

「あいさつの壁」を考えたのは運営委員会の6年生だ。運営委員が廊下を並び、あいさつをして登校してくる児童を迎える。そのほかに、英語であいさつをする週間もあった。

また、6年生は校門前であいさつをして登校児童を迎えたり、ある児童は、今日も、元気なあいさつをするというカードをもらって学校生活スタートさせてきた。

中ノ郷小の今年の目標「中ノ郷」の「い」は「はつらつとした『あいさつ』がとうとう」の言葉があるが、この活動をする前は、児童玄関前であいさつ運動をしても、あいさつがあまり返ってこなかった。運営委員会や6年生は、あいさつの仕方を工夫して、みんなにあいさつを返してもらい、今では多くの人があいさつを返すようになった。

運営委員会の5年生は「あいさつを返してもらえたうれしさが廊下を並び、あいさつをして登校してくる児童を迎える。そのほかに、英語であいさつをする週間もあった。」と話した。

(木村奈々美、笹尾若菜、武田結羽、新田純心)

中ノ郷小新聞

みななでやろー！あいらびー運動

学校概要

【学校名】鳥取市立中ノ郷小学校
【所在地】鳥取市円護寺268番地
【校長名】梶浦紀生
【児童数】204人
【学校教育目標】ふるさとを愛し、未来を拓く（ひらき、たくましく生きる）中ノ郷の子の育成（学び合う力）「つながる力」「つくる力」

沿革

1901(明治34)年 中ノ郷尋常小学校開校。
60(昭和35)年 変遷を経て城北小学校 統合。
95(平成7)年4月 住宅の開発に伴う児童数増により、現在地に城北小学校から分離し、再び中ノ郷小学校として開校。開校時の児童数は331人。
市街地・久松山の北側、鳥取砂丘の入り口に位置し、自然・歴史・文化の多彩なヒートマップに恵まれた。

校区である。古くからの集落と新しい住宅地が共存し、ふるさと中ノ郷としての地域づくりに盛んな土地柄である。学校に対する地域の人々の協力・応援は極めて多く、ボランティア・PTA・PTに恵まれている。

新聞に新聞を NIE Newspaper in Education

5年生が作った新聞です

バケツで「星空舞」収穫 米作りの大切さ学ぶ

中ノ郷小の5年生は毎年、米作りに取り組んでいる。今年も、「星空舞」開発に携わった農業改良普及所の橋本俊司さんの指導のもとバケツ稲作りを行い、土づくりや苗植え、稲の管理、収穫作業などの体験を通して、米作りの難しさと大切さを学んだ。

バケツ稲の苗植えは昨年6月に行われた。植えた品種は「星空舞」と「きぬむすめ」。田んぼの土、砂丘の砂、畑の土など、いろいろな土で育てることも挑戦した。橋本さんに稲の特徴や苗植えの方法を教わって、一人が一つのバケツ稲に苗を植え、水の管理をしながら稲を育てた。夏休みには各自が家に持って帰り、育てた。

昨年10月に手作業で稲刈りと脱穀をし、米一粒一粒丁寧に収穫した。バケツ稲の世話の仕方、土によって米の収穫



橋本さんに苗植えのやり方を教わる5年生

量は大きく差があって、世話の難しさや土づくりの大切さを学んだ。そして12月には、橋本さんを迎えて収穫祭が行われ、収穫した米で作ったおはぎを食べたり、お米に関するクイズを楽しんだりした。橋本さんには、米の絵をはさんだしており、橋本さんへの感謝状をプレゼントし、協力への感謝の気持ちを表した。

5年生の藤松陸人さん

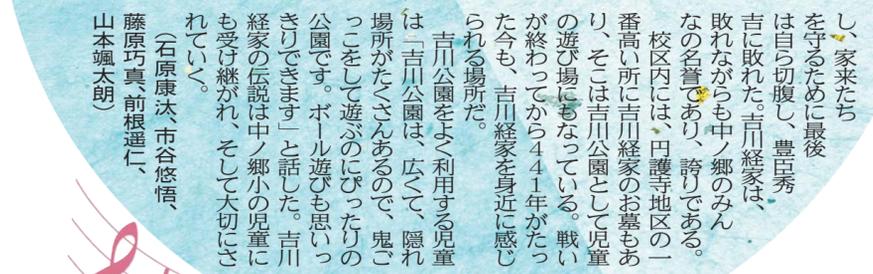
校内に吉川経家!? 誇れる歴史

中ノ郷小に2007年10月25日、吉川経家の像がつけられ、高約2.5m、がっしりとした力強く黒く光る像は多目的ホール入り口に設置され、今も児童を見守っている。

中ノ郷小学校区には、久松山という標高263mの山がある。その山で、1581年に吉川経家と豊臣秀吉による戦いが終わってから441年がたつた。吉川経家を身近に感じられる場所だ。

吉川公園をよ利用する児童は「吉川公園は、広くて、隠れ場所がたくさんあるので、鬼ごっこをして遊ぶのにぴったりな公園です。ボール遊びも思いっきりできます」と話した。吉川経家の伝説は中ノ郷小の児童にも受け継がれ、そして大切にされていく。

(石原康次、市谷悠悟、藤原巧真、前根通仁、山本颯太郎)



校内に設置されている吉川経家像と5年生

支えてくれる地域の方々

学校生活を安全で楽しく

中ノ郷小には、たくさんの協力でかかわってくださっている。してくださる地域の方々。それは、中ノ郷地区に住む地域の方々だ。絵本の読み聞かせ▽中ノ郷まつりや納涼祭▽登下校の安全の見守り▽勉強のサポート▽学校の草刈りや芝刈りなど、皆さんの場面でかかわってくださっている。

金曜日朝の読み聞かせを楽しみにしているという5年生の遠藤弥恵さんは「読み聞かせしてくださる方が、面白い本を持ってきてくださいます。本によって話し方を工夫されているので、物語に引き込まれます」と話した。

また、すずこおどりのチーム「チーム中ノ郷」のメンバーで、今年度初めて中ノ郷まつりに参加して、傘踊りを発表した5年生の大島みなみさんは「初めてしゃんしゃん傘踊りをした。練習はうまくできなかったけれど、本番は緊張や不安が多かった。それでも、練習通りにできてうれしかった」と話した。

地域のたくさんの方が学校に協力してくださることで、学校もとても楽しい場所になっている。

(中尾結莉奈、山根花士、吉田奈央)



「三色パン」さんの読み聞かせを聞く2年生

音楽で世界旅行

5年生は2022年11月25日、シンセサイザーによる演奏「ア」から4回にわたって、ウィンド・ホール・ニュー・ワールド」シンセサイザー奏者の山添裕美さんから始まった。その後アメリカさんを講師に迎え、世界のさまざまな音楽について起源や使われる楽器など、それぞれの音楽の特徴を学んだ。学習を通して、世界に広がる音楽の歴史や文化と深く関係している。山添さんは最後に、鳥取にゆかりがあり「ゴジラ」の映画音楽を作った伊福部昭さんを紹介した。生い立ちを話しながら、「人は財産。人脈は宝」と強調し、授業を終えた。

山添さんと学習を終えて、児童は「ウィンドシンセサイザーの演奏が楽しかった。音楽は革新的だったけれど、いろいろな世界の音楽で踊ったり歌ったりしたから、授業がとても楽しかった」と話した。

山添さんの「音楽で世界旅行」の授業は、毎年5年生に向けて行われている。

(大島みなみ、坪田祥佳、山田茜)



山添先生と音楽を楽しむ5年生